

学校新聞 芥川

平成29年度 卒業証書授与式 式辞

校長 河方 智基

明るい春の光が感じられる、今日の佳き日に、大阪府立芥川高等学校第三十六回卒業証書授与式を挙げていきますことを、心から感謝申し上げます。また、お忙しい中ご臨席をいただき、ありがとうございました。大阪府教育庁ご代表、近隣中学校の校長先生、本校同窓会、後援会、授業等でお世話になった施設の皆様、地域の皆様、PTA役員の皆様方に心から厚く御礼を申し上げます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまで皆さんが積み重ねた努力を心から讃えたいと思います。本日この喜びは、卒業生の皆さんのたゆまぬ努力の結果であることは言うまでもありませんが、皆さんが「今ここに在ること」は、皆さんのことを絶えず気遣いながら、支えてくださった周囲の方々の励まし賜物です。卒業という人生の一つの節目において、そのことをしっかりと胸に刻んで感謝してほしいと思います。そして保護者の皆様、今日まで、長きに渡り本校教育にご理解ご支援をいただき、ありがとうございます。高校時代は心身ともに大きく成長する時期であり、多感な年頃でもある故に、時に保護者としても多々苦勞がございましたことと存じます。そんな中でも最後までお子様を信じて励まし、温かく育ててくれました保護者の皆様方に、心から敬意と感謝、そしてお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは、この芥川高等学校での三年間、学業、学校行事、部活動と全力で頑張り、大変充実した高校生活を送ってきたことと思います。創立から三十八年の本校の歴史に新たな風を吹き込み、更なる飛躍の一步を記してくれたと感じています。そして、皆さんが常にお互いへの思いやり、優しさを大切にしてきたことを誇りに思います。この三年間の日々は、皆さんにとってどのような時間だったでしょうか。三年前の四月にこの体育館で入学式に臨んだ時の自分のことを思い出してみてください。その時の自分と、今の自分とは同じですか。違っていませんか。どこが変わりましたか。きつと全ての面において大きく成長して



いるはずですが。自信を持って堂々と、各々が自分で見つけた進路に向かって歩んで下さい。これからの時代を展望すれば、まず二年後に、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。これを契機として、今後ますます国際化が進んでいきます。日本で、そして海外で、世界中の様々な地域の人々と出会い、共に学び合い、競い合い、お互いを尊重して、協力して物事をなすという人材、すなわちグローバル人材が、今まで以上に求められる時代が到来します。時代の変化という意味では、もう一つ見逃せないことは、人工知能の著しい発展です。ある研究者は今後二十年間のうちに、現在人間が行っている仕事の半分程度が、ロボット化され、顕著な例は車の自動運転などですが、創造性を必要としない仕事は全てテクノロジーが代行し人間は今とは違った仕事をするようになる、と語っています。しかし、人工知能がいかに発展しようと、人間でなければできないことがあります。それは、高度なコミュニケーション能力や、創造性、道徳性や人間性が必要な仕事です。このような変化を遂げる未来を生きていく皆さんに、ぜひ心がけて欲しいことを、三点お話します。

第一に、自分の専門性を磨き抜くことです。それは将来、どのような仕事に携わる時も、物の見方や考え方の判断の拠る所は、自らの専門性です。「自分だからこそできる」、創造力と独創性を備えた専門性を身に付けて下さい。次に、より広いフィールドで自分を高めていくことです。日本だけではなく、世界のフィールドの中で自分を試し、様々な人々と交流し、視野を広げ、豊かな人生を歩んでください。第二に、お互いを認め合う心を育むことです。人間には、民族や、国籍、宗教、文化、性別、年齢など、様々な背景や属性があります。全ての人が、互いの違いを認め合い、心のバリアフリーを実現し、お互いに幸せを追求できることが重要です。それこそが、グローバル社会、そして人工知能が発展する時代にあつて、人間として最も大切なことだと思えます。卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。この芥川高校で培った人間力を発揮して、これからの人生を芥川高校の卒業生として、胸を張り、前向きに力強く生き抜いていってください。芥川高校は永遠に皆さんの母校です。皆さんの新たな一歩とそれに続く輝かしい未来を心から祈念して、卒業式の式辞といたします。

第36回 卒業証書授与式

第3学年主任

2月28日に晴れやかな青空の下、芥川高校で36回目の卒業式が行われました。各教室でPTAから頂いたコーサージュを胸に付けて、36期生たちは1組から順に、元氣よく会場である体育館に入場して行きました。各担任が一人ひとりの名前を呼び、それに返事をして卒業生たちは起立して行きました。校長先生の式辞、在校生の送辞のあと、卒業生代表2名が3年間の高校生活を振り返りながら、答辞を読み上げました。

その後、36期生たちはGreenの「遙か」を、卒業生から選ばれた指揮者とピアノ演奏者の伴奏に合わせて、3年間の思いを込めながら歌いました。

最後にPTA学級委員の皆さんから、各担任に大きな花束を頂き、その後保護者、教職員の温かい拍手に送られて、卒業生たちは退場して行きました。体育館を出ると、1・2年生の部活動生徒たちが渡り廊下の両側に花道を作って、祝福の拍手を送りながら、卒業生を見送ってくれました。



これから様々な進路に向けて進んでいく36期生が、元氣に活躍してくれることを期待しています。卒業式終了後も1週間くらい「遙か」のメロディーが頭の中を、へビーローテーションしていました。

卒業生から母校への卒業記念品

36期生から母校におくる卒業記念品として、ウォータークーラーを寄贈していただきました。2階・4階の水飲み場に設置し大切に使用させていただきます。ありがとうございます。



PTA広報誌「阿久刀」109号を発行しました

総務部PTA係

PTA広報誌「阿久刀(あくど)」109号を2月26日(月)に生徒を通じて配布しました。36期生卒業にあたってのお祝いの言葉、2学年修学旅行報告、今年度のPTA活動の報告などが掲載されています。